

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	鳥取県立中部療育園		
○保護者評価実施期間	令和8年1月7日		～ 令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和8年1月7日		～ 令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間を構造化し子どもにわかりやすい環境調整をしていくなど、多職種連携でそれぞれの専門性を活かし、子どもの理解、特性に応じた専門性のある支援を提供している。	子どものニーズに合わせたクラス編成や子どもの発達、ニーズを踏まえ環境を調整している。機能訓練士も活動に参加し、人的環境調整も行っている。活動の前後でミーティングを行い、支援内容の細かな共有を多職種で行っている。	日常的なミーティングやカンファレンスを通じた情報共有をベースにそれぞれの専門性の理解を園内研修等で深め、支援が途切れない体制についても検討協議をしていく。活動を充実させていくための環境や玩具の充実等、一人ひとりのニーズに合わせた構造化を随時検討する。
2	通園活動を通して利用保護者同士の情報交換を行い、つながりやすさがある。利用者保護者のニーズに合わせた研修会を実施し、療育理解をすすめている。	ニーズに合わせたクラス編成といった同じ情報を共有しやすい環境の工夫や、年2回実施している意見交換会での希望や日常的な相談からニーズを把握し、それらに合わせた研修会を準備している。	家庭状況等、様々な事由で研修会に参加が難しい方々への研修会でのより参加のしやすい方法や不参加であっても研修内容をお伝えできるように情報提供の工夫が必要と考える。
3	保護者同行を基本としており、通園をおとして子育てでの困り感や相談を受けることができ、専門性のあるスタッフからの説明や必要な地域サービスにつながるよう情報共有をタイムリーに行っている。また、意見交換会やアンケートを実施し、利用者保護者の意向を把握する機会を設けている。	利用時に家庭での子どもの様子の聞き取りや気になることへの相談に応じて専門性のある職員やサービスにつなげている。年2回、保護者と第3者委員を交えた意見交換会を実施している。日常的にも活動の中で保護者同士の情報交換ができる時間を組み込んでいる。	今後も並行利用している園の職員の同行受け入れや支援会議の出席など関係機関と連携し、支援ポイントの共有や確認を実施し、利用者のニーズ理解をすすめていく。意見交換会を継続し、意向を精査しながら活動内容の充実と質の向上を検討協議していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所主催での行事(きょうだいむけのイベント開催を含む)等、地域住民を招待する等、行事をととした地域交流が取り組んでいない。	利用者の障がい特性に配慮し安心できる環境調整を提供していくために、現在は地域住民の招待目的の行事は企画していない。保護者同士の交流は活動内で取り組むように工夫している。きょうだい向けのイベントのニーズはあるが、上記の環境調整から開催は難しい。	環境調整や個人情報の管理から実施の難しさはあるが、今後も子どもの支援に関わる事業所、学校、保育園職員の来園、地域の学校生徒の実習やボランティアなど受け入れを継続していく。子どもの支援についての研修や啓発目的の地域療育セミナーをととして幅広く地域に向けて働きかけていく。
2	非常時等の対応についての利用者への情報提供不足。	緊急時対応についての情報提供はHPや掲示物で行っているが利用者それぞれに説明する等の詳細な情報提供は不足している。	それぞれの緊急時対応についての強化月間等設け、避難訓練や防災イベントを通して、利用者の皆様に情報提供できるようにしていく。
3	通園で提供しているサービス内容や利用方法の広報不足	中部療育園のホームページ上に、通園の利用方法や提供サービスにおける支援プログラム等を公表しているが、その情報が保護者に周知できていない。	利用者へ毎月発行している月間予定表にサービス内容等を記載することや、契約時や個別支援計画を保護者へ説明する機会等に説明をして広報を行う。